

2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 19 日作成)

小委員会名	福祉施設小委員会	主 査 名：巖 爽 就任年月：2016 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (施設計画運営委員会)	委員長名：大原 一興 主 査 名：広田 直行
設 置 期 間	2016 年 4 月 ～ 2018 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	(具体的な目標) 地域コミュニティの継続を支える福祉施設のあり方に関する文献研究、事例研究および実践的環境づくり研究を行うことを今期の目的とする。具体的には以下の企画を活動の軸とする。①福祉施設の変遷を制度/空間の視点から時系列に整理し、今後の福祉施設のあり方に示唆を与える。②良好なコミュニティが形成されている先進的地域を取り上げ、高齢者、障がい者、こどもの福祉施設の役割と連携を整理し、地域の継続を支える福祉施設のあり方を考える。③上記の研究活動成果の図書出版やウェブサイトを開設する。	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有 巖爽(宮城学院女子大)、松田雄二(東大)、松原茂樹(阪大)、橘弘志(実践女子大)、石垣文(広大)、加藤悠介(金城学院大)、二井るり子(二井清治建築研究所)、山田あすか(電機大)、森一彦(大阪市立大)、藤田大輔(福井工大)、谷本裕香子(東洋大)、古賀誉章(宇都宮大)、古賀政好(竹中工務店)、神吉優美(奈良県立大)	
設置 WG (WG 名：目的)	福祉転用のためのデザイン手法 WG 事例研究や検討会を通じて、地域からみた福祉転用の意味や価値、建物の所有者との関係、計画理論のあり方、規制と安全性能のバランスなどを包括的に議論し、福祉転用の普及に向けたデザイン手法を広く発信・提言することを目的とする。	
2016 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/j-000/j200-12/j250-12.html

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	公開研究会の開催：福祉転用 京都会議ー空き家・空きビルの福祉転用が切り開く新たなデザインと価値創造ー 参加者数：39 名 2016 年 12 月 3 日(土)、12 月 4 日(日) 学芸出版ビル 3 階ホール
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	2016 年度に予定している目標はほぼ達成しており、具体的な活動はいかに示す。 1. 10 月 15 日(土)に「共生型福祉施設ゆうしゃいん庄原、ユニバーサルケアみとう温泉」、地域に密着し、保育所が併設している特別養護老人ホーム「風の街 みやびら」の見学会並びに意見交換会を実施した。3 月 14 日(火)に「日吉幼稚園・ひよしおひさま保育園(認定保育園)」、「奈佐原寮(児童養護施設)」の見学会、意見交換会を予定している。 2. 福祉施設の変遷を制度/空間の視点から時系列に整理する作業は 3 回の委員会に渡って方向性を確認した。具体的な作業は高齢者、こども、障がい者(児) 3 つの作業グループに分けて進めることとした。 3. 公開研究会の1日目は事例発表会として日本・海外の事例の発表を通して活発な議論ができた。2日目は福祉転用の意義や課題について発表議論を通して整理できた。
委員会活動の問題点・課題	全国の福祉施設を対象とする小委員会の性格から全国から委員を選んでいるが、活動の交通費の多くが自己負担のため、委員会の開催回数を制限した。